

姫路 Y M C A

ミャンマーサイクロン・中国四川省大地震

緊急支援募金中間報告

ミャンマー

ミャンマーではなかなか支援が被災者に行き届かず、軍政府が支援物資を横流しているとの情報がたえません。多くの被災者がいまだに取り残されてしまっています。報道でもありましたが、ミャンマー軍事政権は、限定的ですがようやく海外からの人的支援を受けると表明しました。その結果、日本からも外務省・JICA担当者・日本人医師が最近になってヤンゴン入りしています。

ヤンゴン Y M C A サニー総主事による情報提供

- ・「被災地のイエヤワディ管区・モウビン(マオビン)に行き、薬・食料(米、乾燥 麺、パイナップル等)・衣類等を配布しています。
- ・Y M C A ではイエヤワディ管区に複数のクリニック(6つ)を立ち上げました。政府や他のクリスチャンの救援団体とも協働して、60人の医療従事者を採用し治療にあっています。
- ・モウビンの他、チャイラットという90%が破壊されてしまった地域でも支援活動を展開しています。
- ・ヤンゴンから車で40分ほどのフラインタイヤー地区でも学校の子どもたちを始め被災者への支援を行い、ここでもクリニックを1つ立ち上げました。
日本のみなさま、どうか被災者、生存者の方々の為にお祈りください。よろしく願い申しあげます。」

中国四川省

中国 Y M C A 連盟のジンウェイ総主事代行からの情報提供

現地視察に行ったが、その惨状ひどい。成都 Y M C A では孤児プロジェクトを震災前から行っており、今回の地震で、子どもたちが不自由な生活を強いられている。また、新たな孤児が多く出てきている。今回の視察で孤児プロジェクトへのダメージにショックを受けた。多くの業務に追われているなかで、成都 Y M C A では引き続き、当面必要な支援を選定中。近く、現地の写真が入ったパワーポイント資料を作成し、送る予定である(現在集まっている緊急用の支援金は、取り急ぎ孤児たちの宿舎3棟の再建に用いられる)。

- ・あらたな孤児が出てきており、Y M C A として彼らを保護するために現在内務省に申請している。

- ・建物も専門家による建物診断が必要。
- ・心理的なサポートチームを作る必要があり、そのためにトレーナーが必要になってくる。

今後の計画

(1) 問安について

問安(もんあん=実際にお見舞いに伺うこと)は、非常に重要である。これまでの震災や非常時においても、外部の人が早い段階で実際に現地を訪問し、現地の人々の気持ちに寄り添い、一緒に涙や汗を流すことが、どれほど現地の人々を勇気づけたことかわからない。

(2) 子どもについて

YMCA がいつもフォーカスするのは「子ども」である。

阪神淡路震災においては、こうした孤児の問題は、対応が後回しになってしまっていた。中国においては、早い段階から、孤児への支援を行っていききたい。特に中国は格差の国である。TV報道で見る限り、ずいぶん援助を受けている学校もあれば、全く援助の届かない学校もあろう。人々から省みられていない地域の子どもたちも助けたい。

子どもが元気になれば、それを見た親や祖父母など、周りの大人たちが元気になれる。子どものケアをYMCAが引き受ければ、それだけ親たちは、自分たちの復興作業に専念できる。YMCAとしては、ぜひ中長期的には、子どもたちの心のケアについても協力していく。

緊急支援募金のながれ

各YMCAやYsにて集めていただいた募金については、ミャンマー・中国ともに、日本YMCA同盟が一本化し、アジア・太平洋YMCA同盟経由で現地のYMCAに送金します。

募金の締め切り

各Y(または関係各位)から募金締切日を、ミャンマー・中国ともに【2008年6月30日】とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

6月7日における募金額は

ミャンマー 51,944円

中国四川省 128,321円です。

皆様のご協力に心よりより感謝いたします。